



# 原美術館 NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS  
vol.14

平成19年 秋号

企画展

## 「池田綱政—岡山の文化をつくりあげた大名—」 (平成19年10月20日[土]～12月24日[月])によせて

川崎医療福祉大学 教授 神原 邦男

（企画展「池田綱政」監修）

この企画展では、林原美術館が所蔵する池田綱政の自筆資料

から、岡山藩主としての綱政が、一人の人間として如何に生きたかを考えてみました。通常は見ることの出来ない大名の個人情報を開示する展覧会といえます。

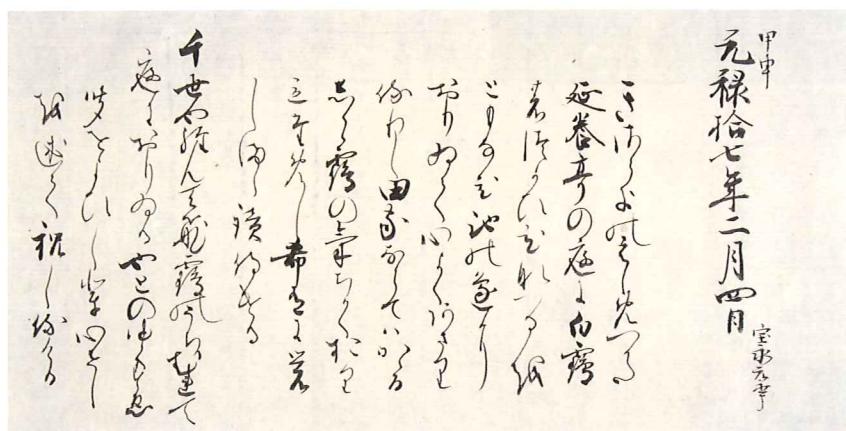
岡山後楽園をはじめ、岡山を代表する江戸時代の文化財は、池田綱政の時代につくられたものがほとんどです。しかし池田綱政については、明治時代より現在まで十分な研究が行われず、岡山でも従来あまり評価されませんでした。このたび林原美術館が所蔵する池田綱政自筆の資料を精査することにより、江戸時代の大名庭園の姿を現在に伝える岡山後楽園が、綱政のどのような造形思想により築庭されたか、また庭園内になぜ能舞台が造られ、領民たちに能を見物させることになつたかなど、今まで誰もが疑問に思っていたこ

とを解説する手掛けりを得ることが出来ました。

今回展示される綱政自筆の資料は、江戸時代の大名たちが、江戸で日常生活を送るために、どのような文化的教養が求められていたかを具体的に示すとともに、一国を治める大名が、どのよ



池田綱政画像(池田家歴代画像「縹武像」のうち)



『鶴詩歌』(部分) 池田綱政筆

うにして豊かな教養と高い見識を備えていたのかを知ることが出来ます。江戸時代の岡山の文化を作り上げた、岡山藩主池田綱政の実像をご覧いただきたいと思います。



## 特別展

## 「華やかな日本刀——備前一文字——」(平成20年2月23日[土]～3月30日[日])によせて

財団法人佐野美術館 館長 渡邊妙子

備前国は、平安時代から優れた日本刀が多く生産され、備前刀は日本刀の代名詞とも云われています。その中で、最も絢爛豪華な名刀をあまた鍛造したのが一文字派です。

一文字派が隆盛を極めるきっかけは、鎌倉初期に後鳥羽上皇(院)が御番鍛冶として刀工を院に招いたことに始まります。十二ヶ月結番の十二人のうち、七名までが備前一文字派の刀工でした。その筆頭が一文字の祖とされる則宗であり、正月の御番鍛冶という栄誉を得ました。則宗およびその一門の太刀は、優雅な曲線を持つ気品高い作で、上皇の御心に適うものであつたと拝察します。御番鍛冶が院で鍛造した太刀には、「菊文」が毛彫りされ、「菊一文字」と呼ばれています。

承久三年(一二二一)、上皇は執権北条義時追討の院宣を下しましたが、鎌倉幕府軍によつて上皇方は破れ、隠岐に流されました。「われこそは新じま守よ沖の海のあらき浪かぜ心してふけ」と詠じた上皇は、十八年の歳月ののち隠岐において崩御されました。

『承久記』(古活字本)には、院自らが焼きいれをされ、それに「菊文」をいれ、西面の武士などに下賜し、武勇を高揚したとあります。このことは南北朝時代の『尺素往来』に始まり、以後江戸時代まで『大日本史』や『其讀史世論』(新井白石)、「和訓栞」にも書かれています。

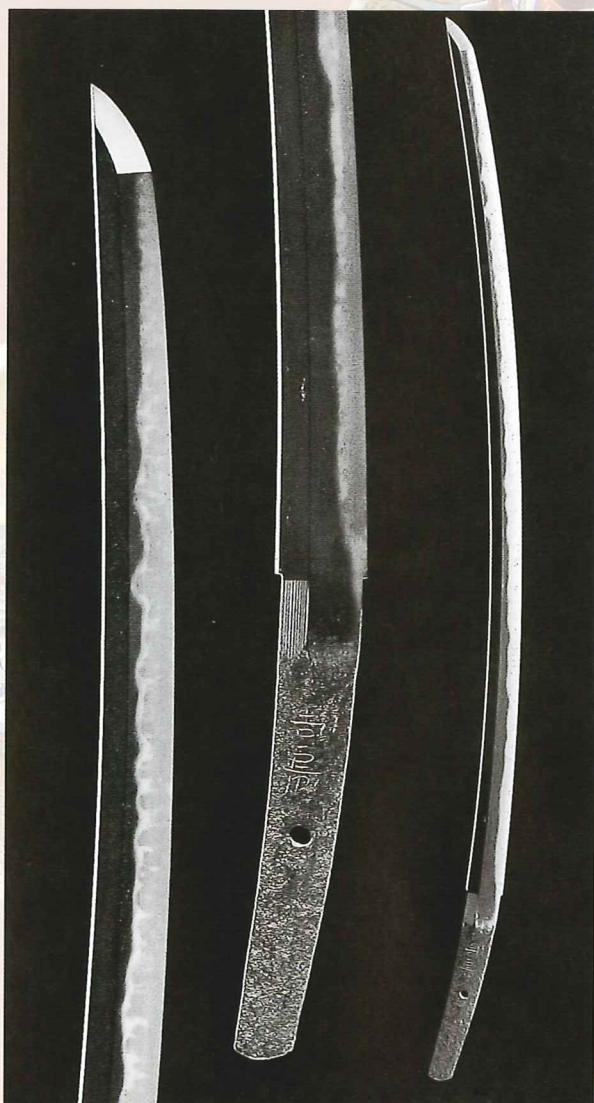
れて、「菊一文字」の名は上皇の悲運な生涯への思いとともに、今に伝えられています。

承久の乱に勝利し、西国を制覇した北条氏は、武士の規範とする御成敗式目(貞永式目)を制定し、律令体制から脱して武士の「政道」を明らかにしました。質実剛健は、「政道」の根本精神でありました。武士の腰物は、拵えの華美を慎み、刀身そのものの

れも王朝文化の香りを残した品格の高さが伺えます。なお、菊御作(後鳥羽院御作)と呼ばれる菊紋の太刀も展示されます。

そして、鎌倉武士の期待に応えた一文字派の刀工には、吉房・則房・助真・助光の他、名工が綺羅星のごとく並びます。吉房は、白く冴え渡る地鉄を鍛えて力強い曲線をもつ太刀に、豊麗な刃文を焼き、一文字派中筆頭に挙げられる天才的刀工です。助真是鎌倉でも鍛造したと伝え、焼の強い霸氣に富んだ作を造りました。助光は吉岡の地で豪快な作風を生み出し、一文字派の最後を飾りました。

日本刀になぜ、桜花爛漫のごとき刃文を焼いたのか、皆様はどうのようにお思いになられますか。まずは、世界に誇る我が國の鉄の文化を、本展覧会を通してご堪能いただきたいと存じます。



太刀 銘 吉房(国宝) 林原美術館

本展覧会の監修をされる渡邊妙子先生よりご寄稿頂きました。当展では、林原美術館所蔵の7口の刀剣を含め、約50口の刀剣を展示します。

入館料は一般800円・高校生600円・小中学生無料となつており、図録も販売いたします。

鍛鍊へと向けられました。太刀そのものの質を高める、これが一文字派の更なる隆盛を導くことになりました。豪壮な姿、華麗な刃文、他の追従を許さない天下に誇る名刀が生まれました。

このたびの主要な展示品をご紹介いたします。後鳥羽院の御番鍛冶として、正月の則宗、三月の延房、五月の近房、七月の宗吉、九月の助宗、それらにはいず

## 本年度後半の企画展

### 企画展「うるしの華」

開催中 10月14日(日)

当館所蔵の日本及び中国の漆工芸品を展示しています。特に今回は、重要文化財の綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度十九点全てをご覧いただきます。また江戸時代に女性の髪を飾った櫛七十七枚も一堂に展示しています。

(宮尾)



綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度の内 合貝

### 企画展「能装束—幽玄の美—」

平成20年1月6日(日)～2月11日(月)

江戸時代に能が武家の式樂となるとともに、能装束は形式を整えていき、また豪華絢爛な染織品の代表になっています。中でも備前池田家伝來の能装束は質量ともに国内屈指を誇ります。本展では能装束の美に触れています。本展では能装束の技法にも注目します。

(宮尾)



能装束 段に霞と麻の葉山吹牡丹撫子老松文縫箔

### お花見と館長講話

## 本年度前半のイベント報告

### 第7回 美術館周遊の旅

6月3日に、「大和路美術館を巡る旅」を開催しました。今回は、日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録された法隆寺、近代陶芸界の巨匠、富本憲吉の生家を修復して建てた富本憲吉記念館、天平時代に制作された十一面觀音立像で有名な聖林寺の三箇所を見学しました。天候にも恵まれ、さわやかな風が吹く大和路を巡り、最後は三輪そうめんのお土産を買い、岡山へと戻りました。



桜見弁当

### 特別講演会

春の講演会 4月28日に、同志社大学社会学部教授の佐伯順子氏に講演していただきました。

「美人コンテストの変遷と描かれた女性像」と題し、明治時代に開催された芸者を対象としたコンテストから、女学生や華族の服装、「美人」の概念の変化に関する話題まで、幅広くお話をいただきました。

夏の講演会 6月23日に、「肥前の色絵磁器—鍋島・古伊万里・柿右衛門」と題し、佐賀県立九州陶磁文化館学芸課長の鈴田由紀夫氏に講演していただきました。鍋島焼や伊万里焼の分類方法から細部の見所まで、スライドでの解説を交えながら、現場で活躍されている方ならではの目線でお話をいただきました。



富本憲吉記念館にて

### 第40回美術講座

7月14日に、第40回美術講座「館蔵品とその研究」を開催しました。今年3月に創刊した当館紀要に掲載した論考を、熊倉館長と当館学芸員の計3名が発表しました。日頃の研究内容を発表するという、当館としても初の試みでしたが、あいにくの雨模様にも関わらず、90名の方に参加していただきました。



## 今後のイベント情報

### ◆特別講演会

今年度後半に開催される当館の企画展にちなんで、各研究の第一線で活躍の方々を講師にお迎えして、特別講演会を開催します。

場所・定員・参加費は左記の通りです。

場所	岡山県立図書館 2階 多目的ホール
定員	100名(要予約)
参加費	友の会会員 1,000円 一般 1,200円
日時	平成19年10月25日(木)

### 〈秋の講演会〉

日時	平成20年1月19日(土)
演題	「池田綱政―大名に求められた教養―」
講師	神原邦男氏(川崎医療福祉大学教授) 切畑 健氏(京都国立博物館名誉館員)

### ◆お茶会のご案内

ご好評をいただいています

お茶会は、今年で三年目を迎えました。例年同様、亭主を熊倉功夫館長が務め、お水屋を数田宗枝先生が担当します。この機会にぜひ、館長とともに楽しいお話をとお茶をご堪能下さい。多くの方々のご参加をお待ちしています。なお、詳細は後日ご案内します。



茶室 竹明庵

### 【冬の講演会】

日時	平成20年1月25日(木)
演題	「能装束の美」(仮題)
講師	切畑 健氏(京都国立博物館名誉館員)

### ◆ワークショップ

今年度後半は、左記の日程で刀剣に関するワークショップを開催いたします。詳細につきましては、後日お知らせします。

#### 【小刀製作】

実際に小刀作りに挑戦します。更に実費(1万円程度)を追加していただくことにより、研ぎ・鞘付きで後日お渡しすることも出来ます。

日時	平成20年3月 1日(土)・2日(日)
場所	高野行光刀匠
定員	大人対象 各日5名(要予約)
参加費	20,000円



下段は製作直後的小刀  
上段は研ぎ・鞘を付けた場合の完成品

### 【銘切り】

大野義光刀匠  
より、作刀工程の説明を受けた後、実際に「銘切り」の体験をします。  
銘を入れた文鎮(一人一本)をお持ち帰りいただけます。



「銘切り」風景

## 編後集記

今号では、今年度後半に開催する展覧会について、神原邦男先生と渡邊妙子先生よ

り原稿をご寄稿いただきました。今年度もすでに後半突入しましたが、展覧会や各種イベントが盛りださんです。皆様のご来館・ご参加をお待ちしております。(浅利)



## 友の会のお知らせ

林原美術館友の会が現在の形にリニューア

ルし、再スタートしたのが平成13年で、今から7年前になります。本年も館員一同、企画展の展示内容はいつに及ばず、催事関係の内容の充実に、より一層努めてまいりました。昨年に引き続き、熊倉館長が亭主を務めるお茶席(11月開催予定)・美術講座(7月)・周遊の旅(6月)・中国音楽とお月見(9月)を行い、さらに館外の講師による講演会を春夏秋冬それぞれに開講しています。

友の会会員の皆様には、このよつた当館の活動内容や催事のご案内を、美術館ニュースを通して一番早くお届けしています。今後とも、様々な形で会員の皆様とコミュニケーションを取り、頂戴した意見も取り入れ、より一層充実した美術館となるよう頑張っていきたいと思っています。

財団法人  
**林原美術館**

〒700-0823

岡山市丸の内二丁目七番五

TEL ○八六一-二三一-一七三三  
FAX ○八六一-二六一-三〇九九  
参加費 友の会会員 1,500円  
定員 各日60名(要予約)  
一般 1,800円

参加費 無料  
定員 小学校高学年～中学生と  
保護者の方対象 20名(要予約)

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>